

3. つながりをつくる 巡回展示・大型映像配給

内外の科学館・博物館などへの展示物の巡回や映像配給をおこない、科学コミュニケーション活動の普及活動に取り組み、2015年度はのべ139万人以上の動員を記録しました。また、館内での科学コミュニケーション活動から得られた知見を活用し、以下の巡回ミニパッケージも開発しました。

■巡回展示（一部抜粋）

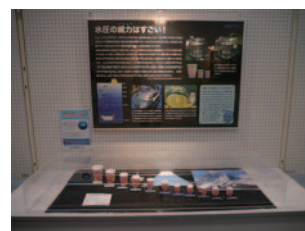
- ▶ 夢をかなえるためにできること ～障がい者スポーツの世界～
福井県児童科学館(福井県)、岩見沢郷土科学館(北海道)、仙台市科学館(宮城県) 等
- ▶ わたしたちのかけがえない海 ―はじめての海の科学―
岩見沢郷土科学館(北海道)、根上学習センター(石川県)、防府市青少年科学館(山口県) 等
- ▶ 2015年ノーベル賞（2015年度開発）
出雲科学館(島根県)、向井千秋記念子ども科学館(群馬県)、ひととものづくり科学館(石川県) 等
- ▶ MOONS ―個性豊かな衛星たち―（2015年度開発）
上田創造館(長野県)、小樽市総合博物館(北海道)、鹿児島市立科学館(鹿児島県)、仙台市天文台(宮城県) 等
- ▶ ‘おいしく、食べる’の科学展
群馬県立自然史博物館(群馬県)
- ▶ トイレ？行っトイレ！～ボクらのうんちと地球の未来～
グランフロント大阪(大阪府)、仙台国際センター(宮城県)
- ▶ ポケモン研究所 ～キミにもできる！新たな発見～
名古屋市科学館(愛知県)



グランフロント大阪での展示



仙台国際センターでの展示



わたしたちのかけがえない海
―はじめての海の科学―

■大型映像配給

- ▶ ちきゅうをみつめて
筑波大学(茨城県)、鳥取大学(鳥取県)、放送大学三重学習センター(三重県)、三重大学(三重県)
- ▶ Young Alive! ～iPS細胞がひらく未来～
第29回日本医学会総会2015関西(兵庫県)
- ▶ FURUSATO 宇宙からみた世界遺産
SCIENCE CENTRE MALOKA Cinema Dome Theatre(コロンビア)、ひかりTV(4K番組) 等

■ブース出展など

- ▶ 未来館PRブース
子ども霞ヶ関見学デー(東京都)、大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015(新潟県) 等



大型映像配給ポスター
「Young Alive!
～iPS細胞がひらく未来～」

3. つながりをつくる 国内科学館

全国の科学館180館が加盟する「全国科学館連携協議会」事務局の運営を通じて、科学館のネットワークを活用した効果的な情報発信に努めています。

■ パネル展の貸出

研究機関などの協力を得て「全国科学館連携協議会」加盟館を対象にパネル展の巡回調整と貸出を行いました。2015年度はのべ78施設へ展開し、のべ90万人以上の動員を記録しました。
 [協力機関] 海洋研究開発機構、宇宙航空研究開発機構、国際協力機構、向井千秋記念子ども科学館



展示「生物多様性 一人と自然の共存」

■ 総会、ブロック会議の開催

各地域のネットワーク強化を目的として以下の会議を実施しました。

会 議	開 催 日	会 場	参加者
総会・幹事会 / 施設見学	2015年6月17日(水)、18日(木)	日本科学未来館 すみだ水族館	74団体 111人
北海道ブロック会議	2015年10月22日(木)、23日(金)	十勝ガーデンズホテル	13施設15人
九州ブロック会議	2015年11月12日(木)、13日(金)	鹿児島市立科学館	14施設20人
東北ブロック会議	2015年11月19日(木)、20日(金)	青森県立三沢航空科学館	15施設34人
関東ブロック会議	2016年2月26日(金)	相模原市立博物館	7施設10人
中国・四国ブロック会議	2016年3月8日(火)、9日(水)	防府市青少年科学館	4施設8人
北信越ブロック会議	2016年3月2日(水)、3日(木)	原子力の科学館 あっとうむ	10施設12人
東海ブロック会議	2016年2月23日(火)	名古屋市科学館	9施設14人
近畿ブロック会議	2015年11月28日(土) 2016年3月21日(月)	綾部市天文館 橿原市こども科学館	3施設7人 3施設6名

■ 加盟館職員を対象とした研修の実施

加盟館職員の能力、知見などの向上やコミュニケーション促進を目的として以下の研修を行いました。

▶ 第1回国内研修 (研修テーマ：学校・教育現場と科学館を繋ぐユニークな取り組み)

開催日：2015年11月8日(日)、9日(月)

会 場：スリーエム仙台市科学館、仙台市天文台 参加者：23施設36人

▶ 第2回国内研修 (研修テーマ：企画展の企画から実施まで)

開催日：2016年2月22日(月)、23日(火)

会 場：名古屋市科学館 参加者：39施設53人

▶ 海外研修

期 間：2016年2月4日(木)～9日(火)

会 場：Manchester Museum of Science and Industry、The Manchester Museum、London Science Museum他

参加者：6施設8人



海外研修(London Science Museum)

■ イベント協力

田村っ子ゆめまつり2015、オーシャンキッズ ミニフェスティバル in アクアマリンふくしま、こども☆ひかりミニフェスティバル、サイエンスピクニック等に参加しました。

■ 人材交流事業

各加盟館がもつノウハウやスキルを相互に学び合い、活動拡大創出の機会に繋げるための人材交流を実施。

・2015年12月2日(水)～6日(日) 長野市少年科学センターから富士川楽座への人材派遣

・2015年12月9日(水)～13日(日) 富士川楽座から長野市少年科学センターへの人材派遣



サイエンスピクニック

(敬称略)

3. つながりをつくる 国際連携

国際的な科学館コミュニティとの連携活動として、国際会議での情報発信、海外科学館との人材交流などを行っています。

■ワールド・バイオテクノロジー・ツアー（WBT）

WBTはバイオテクノロジーやその社会との関係性について科学館の活動を通して理解を深めることを目的とした国際プログラムです。海外の科学館や企業などと連携して行うイベント等を通して、バイオテクノロジーに関する社会的課題について問いかけています。

※北米地域を中心とする科学館ネットワークAssociation of Science- Technology Centers (ASTC) が企画・運営、Biogen Foundationが協賛。3年間で12の科学館が選ばれます。初年度には、Cinencia Via (ポルトガル)・Technopolis® (ベルギー)・未来館が選出されました。



WBT Lab-in-a-Box
バイオテクノロジーを体験しよう

▶ イベント「バイオにハマる7日間! バイオテクノロジー・フェスティバル」

期 間：2015年8月3日(月)～8月9日(月) 参加者：のべ3,252人

内 容：サイエンス・ミニトーク「研究者と一緒に、心臓の世界にドキドキしよう!」

実施日：2015年8月7日(金) 参加者：80人(計2回)

講 師：竹内純(東京大学 分子細胞生物学研究所 准教授)

サイエンティスト・トーク「細胞の中、『生!』で見せまそうるタンパク質が語る生命の世界」/
クラブMiraikan向けイベント「光るタンパク質が語る生命の世界ー蛍光で細胞を観察しよう!」

実施日：2015年8月8日(土) 参加者：120人/12人

講 師：宮脇敦史(理化学研究所 脳科学総合研究センター 副センター長/細胞機能探索
技術開発チーム チームリーダー、同研究所 光子工学研究領域 生命光学技術
研究チーム チームリーダー)

Lab-in-a-Box バイオテクノロジーを体験しよう 等

▶ WBT アンバサダープログラム

公募によって選考された高校・大学生5名が科学コミュニケーターのメンタリングを受けながらバイオテクノロジーに関する研究に挑戦しました。最優秀アンバサダーは、2017年に開催される世界科学館サミットの場でプレゼンテーションを行う予定です。

期 間：2015年4月～11月(最終プレゼン審査および表彰式：2015年11月15日(日))

審査委員長：毛利衛(日本科学未来館 館長)

審 査 委 員：スティーブ・スギノ氏(バイオジェン・ジャパン株式会社 代表取締役社長)、鳥居慎一氏(バイオジェン・ジャパン株式会社 研究開発本部長)、宮川剛氏(藤田保健衛生大学 教授)、訖摩雅子(日本科学未来館 科学コミュニケーション専門主任)

最 優 秀 賞：腸内環境と私たちの健康の関係(服部真央 高校2年)

主 催：日本科学未来館、Association of Science- Technology Centers (ASTC)

協 賛：Biogen Foundation



WBT アンバサダープログラム
(最終プレゼン審査および表彰式)

■ASPACブログトレイン

科学コミュニケーターがASPAC(アジア太平洋地域科学館連盟)2015に参加し、“Power of Words(言葉の力)”というセッションでプレゼンテーションした内容がきっかけとなり実現した取り組みです。各国の科学コミュニケーターが各館のブログにて同じテーマで連日執筆しました。

期 間：2015年7月27日(月)～31日(金)

参加館：Petrosains(マレーシア)、未来館、The Mind Museum(フィリピン)、Scitech(オーストラリア)、Science Centre Singapore(シンガポール)(記載順でブログを執筆)

ブログタイトル：A Day in the Life of a Science Communicator(SC)



ASPAC ブログトレイン

■Picture Happiness on Earth

アジア太平洋地域6カ国の中高生が科学データやデジタルコンテンツを活用しながら、科学的・論理的に地球規模の課題を多視点から捉える機会を創出する取り組みです。各国でジオ・スコープ、ジオ・パレットのデータを活用し、自国や世界の「幸せ」について中高生と共に考えるワークショップを行い、ジオ・コスモスに映し出すシナリオを作成しました。来年度はそれらのシナリオを公開して各館から1点ずつ選出されたストーリーをもとに、日本の中高生がジオ・コスモスに投影できる映像コンテンツにまとめ上げていく予定です。

期 間：2015年9月～2017年3月(1年半のプログラム、参加館を変え2サイクル実施予定)

参加館：China Science And Technology Museum(中国)、Petrosains(マレーシア)、Science Centre Singapore(シンガポール)、Scitech(オーストラリア)、The Mind Museum(フィリピン)、静岡科学館 る・く・る(日本)

(敬称略)

■ 科学館国際会議への参加

▶ ASPAC(アジア太平洋地域科学館連盟)2015 発表等件数: 4件

会期: 2015年4月26日～30日(木) 会場: The Mind Museum(フィリピン・マニラ)
参加者: 140人(未来館からの参加は5人)

▶ ECSITE(欧州科学館会議)2015 発表等件数: 2件

会期: 2015年6月9日(火)～13日(土) 会場: MUSE-Museo delle Scienze (イタリア・トレント)
参加者: 約1,101人(未来館からの参加は3人)



ASPAC2015

■ 韓国テグ国立科学館との人材交流

相互に民間企業との連携による企画展などの実例を紹介し共有した他、SCWS2017に向けたセッションの検討などをおこないました。

実施期間: 2015年7月27日(月)～31日(金) 会場: 日本科学未来館 参加者: 同館職員4名

■ 「世界科学館サミット(SCWS)2017」の開催にむけた活動

世界科学館サミット(SCWS)は3年に一度、世界各地の科学館ネットワークとそのパートナーが一堂に会する国際会議です。2014年の第1回はヨーロッパを代表してベルギーの科学館Technopolis®で、そして第2回となる2017年はアジア・太平洋地域を代表して、日本科学未来館で主催します。科学館の代表者が、科学者や教育者のみでなく、政府・行政、産業界や市民社会の代表者など、より広範囲のパートナーとともに、地球規模課題の解決に対する新しいアプローチと、具体的な施策を実現するための戦略的な協力体制を構築することを目指して議論する場で、世界約50ヶ国より500名程度の参加が予定されています。

2015年度は国際プログラム委員会とともに、議論のトピックスを決定しました。開催各日ごとに「グローバル・サステナビリティ」、「ともに創り、ともに変わる」、「一人ひとりが科学に関わるために」というトピックスを設定し、課題を共有して組織レベルや個人レベルの変化を促すための議論を行います。2016年度も引き続き、外部の有識者やステークホルダーの方々の助言、参画を得ながら、本サミットが実りあるものとなるよう具体化や準備を進めていきます。

SCWS2017 テーマ:

“世界をつなぐー持続可能な未来に向かって” (Connecting the World for Sustainable Future)

会 期: 2017年11月15～17日(3日間)

※14日には科学館のリーダーのみによるCEOフォーラム開催

会 場: 日本科学未来館

参 加 者: 世界の科学館、大学/研究機関、政府/行政、企業、国際組織、NGO/NPO、ファンディング機関、在京大使館ほか科学コミュニケーション機関の関係者、科学ジャーナリストなど

詳細情報: <http://scws2017.org>



SCWS2014(ベルギー・メヘレン)でのディスカッションの様子

多様性、つながり、未来をあらす
SCWS2017のロゴマーク

3. つながりをつくる 学校・教育機関

科学コミュニケーションの普及を目的に、教育委員会との連携、学校団体へ提供するプログラムの開発・実施を行いました。

■教育委員会との連携

- ・東京都教員研修にて小学校・中学校・特別支援学校の教員向けに学校団体向けプログラムの実施、ジオ・スコープを用いたワークショップ、ディスカッション等 実施
(2015年6月25日(木)、26日(金)、10月19日(月))
- ・社会教育主事講習にて未来館の取り組み紹介と展示案内を実施(2015年8月7日(金))
- ・埼玉県高等学校初任者研修にて対話型ワークショップやワークシートを実施(2015年9月16日(水)) など

■学校団体向け新規プログラムの開発

- ・高校生向けワークシート「Challenge to the limit 地球編／宇宙編」
- ・常設展示見学ワークシート(小学生用)
- ・対話型ワークショップ(エネルギー編／生物多様性編)をパッケージ化

■学校団体向けプログラム

30min. サイエンス	実験教室
深海にふれてみる～水圧実験	放射線
どうする?これからの電気	超伝導
ワークショップ	ワークシート
生物多様性	わたしたちが暮らす未来(高校生用)
エネルギー	常設展示見学ワークシート(中学生用)
	常設展示見学ワークシート(高校生用)



学校団体向けプログラム実施の様子
(ワークシート「わたしたちが暮らす未来」)

参加者：のべ3,909人(120件)

3. つながりをつくる ボランティア・メンバーシップの活動

ボランティアとともにさまざまな科学コミュニケーション活動を展開するとともに、メンバーシップの活動を通して科学コミュニケーションの普及展開を行いました。

■ ボランティアの活動

展示フロアでの展示解説のほか、イベントではボランティアの持つ高い専門性をいかした企画を行いました。

- ▶ ノーベルかがくショー 参加者：のべ8,146人（10テーマ、計401回）
- ▶ 展示フロアツアー「人類はなぜ宇宙を目指すのか」 参加者：のべ2,596人（計477回）
- ▶ 実験屋台（環境コース、電磁気コース、ロボットコース） 参加者：のべ3,583人（計8回）
- ▶ ボランティアイベント 参加者：のべ1,240人（2日間、計3企画）
- ▶ サイエンストーク・フェスタ 参加者：520人（3日間、計13企画）
- ▶ プランクトン観察会 参加者：のべ2,182人（5回）
- ▶ サイエンスアゴラ出展「ふわっと科学に触れてみる」 参加者：のべ1,200人（2イベント）



ボランティアイベント



サイエンストーク・フェスタ

■ メンバーシップの活動

モニター会、ワークショップ、研究施設の訪問などを137回実施、のべ1,530人が参加しました。（一部抜粋）

- ▶ 試行会・モニター（開催数：2回、参加者：計39人）
一般公開前の新規展示のモニター会を実施しました。
- ▶ リアルラボ（研究施設等訪問）（開催数：計2回、参加者：計23人）
企業の研究現場を訪問し、研究者からのレクチャーや実験に取り組む「リアルラボ」を行いました。（訪問先：新日鉄住金株式会社、株式会社日立ハイテクノロジーズ）
- ▶ 1日科学コミュニケーター体験（開催数：計9回、参加者：のべ38人）
クラブMiraikan会員が科学コミュニケーターとして「インターネット物理モデル」の実演を行いました。
- ▶ ワークショップ（開催数：計23回、参加者：のべ266人）
「親と子で描くみどりの環境」や「顕微鏡でお月見!? 隕石からわかる太陽系のヒミツ!」のように、トークイベントで講演する研究者とともにワークショップを行うなど、様々なイベントを実施しました。



新常設展「未来逆算思考」の
モニター会



リアルラボ@日立ハイテクノロジーズ



1日科学コミュニケーター体験

3. つながりをつくる 研究者・技術者とのつながり

展示やイベントを通じて先端の科学技術に関する情報を社会へ発信することを目的として、現在活躍している研究者や技術者、研究コミュニティなどと積極的に連携しています。

■若手研究者にむけた科学コミュニケーション能力伝承のための取組

▶第38回日本神経科学大会市民公開講座「脳の達人」プレビュー

神経科学大会市民講座で行われる研究者のプレゼンテーションについて、より魅力的なものになるように科学コミュニケーターがアドバイスをしました。また、一般の方々の意見を研究者コミュニティに届ける活動にもつながりました。

■研究者の意識を改革する取組

▶科学コミュニケーション研修プログラム「サイエンティスト・クエスト」

科学コミュニケーターによる事前研修を受けた研究者が展示フロアで1日数回、来館者と直接対話を行いました。非専門家である来館者に自身の研究について語ることで、伝えることの難しさとおもしろさ、重要性だけでなく、自身の研究内容を社会の側から多角的に捉え直す機会になりました。

タイトル	開催日	会場	研究者	参加者
～脳科学～	2015年5月31日(日)	5階 世界をさぐる	細田千尋(東京大学大学院 総合文化研究科 学術研究員)	80人
みんなで創る未来の街	2015年6月28日(日)	5階 世界をさぐる	竹内雄一郎(株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所)	45人
ITの力で、やる気を引き出す	2015年7月26日(日)	5階 世界をさぐる	坂本一憲(国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 助教)	70人
物の動きを知る	2015年8月6日(木)	5階 世界をさぐる	志賀信泰(情報通信研究機構(NICT)電磁波計測研究所)	71人
人間の暮らしに活かそう！動物たちの"超能力"	2015年9月13日(日)	5階 世界をさぐる	飛龍志津子(同志社大学 生命医科学部 准教授)	43人
"触覚"を研ぎ澄ませ！さわり心地を伝えて生まれる豊かな暮らし	2015年10月18日(日)	5階 世界をさぐる	田中由浩(名古屋工業大学大学院 工学研究科 助教)	38人
親子の絆を科学的に考えてみよう	2015年11月29日(日)	5階 世界をさぐる	吉田さちね(東邦大学 医学部 助教)	58人
体の中でのリサイクルを考える	2015年12月12日(土)	5階 世界をさぐる	久万亜紀子(東京大学大学院 医学系研究科 助教)	36人
冬眠する哺乳類のスゴイ能力～健康的なゴロ寝生活！～	2016年1月24日(日)	5階 世界をさぐる	山口良文(東京大学大学院 薬学系研究科 助教)	73人
心臓を動かす驚きの最強チーム！	2016年2月14日(日)	5階 世界をさぐる	藤生克仁(東京大学 システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点 特任教授)	117人

■共同研究・研究協力

▶日本科学未来館 研究エリア との連携

世界的にも珍しい、科学館の中に研究施設が併設されているという特色を活かして、研究施設の利用者による科学コミュニケーション活動を積極的に展開しています。2015年度は、「多感覚コミュニケーションプロジェクト」(研究代表:田中章浩(東京女子大学 現代教養学部 心理学専攻 准教授))による心理学実験、「インタラクション理解プロジェクト」(研究代表者:坊農真弓(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 助教))の対話記録研究に協力しました。また、入居している12の研究プロジェクトとともに「Miraikanオープンラボ2015～未知の世界の扉を開け～」と題して、様々なイベントを実施しました。

・Miraikanオープンラボ ～未知の世界の扉を開け～

期間: 2015年10月23日(金)～25日(日)

ツアー～いってみよう

参加者: 計116人(全6回、8研究プロジェクトで実施)

フリーウォーク～たんけんしよう

参加者: 計927人(全2回、6研究プロジェクトで実施)

ワークショップ～やってみよう

参加者: 計66人(全4回、3研究プロジェクトで実施)

トーク～はなそう

参加者: 計173人(全5回、4研究プロジェクトで実施)

トークイベント「地方創生×科学技術×デザイン ～高知県佐川町発、五感技術を活用した新プロジェクト開発の背景と想い」

実施日: 2015年10月24日(土) 参加者: 76人

登壇者: 苗村健(東京大学大学院 情報学環/情報理工学系研究科 教授)、寛裕介(issue+design 代表/株式会社博報堂)、堀見和道(高知県佐川町 町長)



Miraikanオープンラボ 2015
館研究室



Miraikanオープンラボ 2015
長谷川・松尾研究室

(敬称略)

▶ 国立国際医療研究センター 国際感染症対策室との連携

感染症は突発的なアウトブレイク時には不安感から不確かな情報が飛び交いやすい疾病です。そのため、誰でも自宅などで視聴できるネット番組を通して、感染症に対する科学的に正確な情報を提供しつつ、個人が気軽に専門家に質問できる場を設けました。

- ・ニコニコ生放送「niconico×日本科学未来館【徹底解説】MERSアタックから身を守る」

日 時：2015年6月19日(金)

講 師：堀成美(国立国際医療研究センター 国際感染症対策室)

- ・ニコニコ生放送「niconico×日本科学未来館「耐性菌」って何だ!?!」

日 時：2015年12月4日(金)

講 師：堀成美(国立国際医療研究センター 国際感染症対策室)、笠井正志(兵庫県立こども病院 小児感染症科)

▶ メディアラボ第15期展示「アルクダケ 一歩で進歩」

2つの体験型コンテンツを通して、「歩き方」から個人を特定したり、年齢を推定したりする技術の実証実験を行いました。のべ60,000人(2016年3月末時点)が参加し、展示を体験するかたちで実証実験に協力しました。体験者は、自身の解析結果を持ち帰ることができ、大変好評でした。



歩容個性計測の結果の出力サンプル

▶ コミュニケーションロボット「Sota(ソータ)」による来館者アンケート

「Sota」を通じたコミュニケーションの技術的課題や効果の知見を与える実験に協力しました。

期 間：2015年8月1日(土)～31日(月) 参加者：のべ8,641人

▶ 来館者が先端研究の実験に参加し、研究者と対話をするイベント「ともにつくる サイセンタン!」

- ・部屋にしながらマッピングパーティ ～視覚障害者移動支援の取り組み～

実施日：2016年3月18日(金)、19日(土) 被験者：のべ42人 デモ体験：のべ210人

主 催：日本科学未来館、産業技術総合研究所 人間情報研究部門 サービス観測・モデル化研究グループ

- ・笑い声鑑定所 ～その笑い声、ホンモノ? セモモノ?～

実施日：2016年3月20日(日)、21日(月) 被験者：のべ300人

主 催：日本科学未来館、東京女子大学 現代教養学部 田中章浩研究室

- ・一挙手一投足をじっくり観察

実施日：2016年3月26日(土)、27日(日) 被験者：のべ106人 デモ体験：のべ60人

主 催：日本科学未来館、産業技術総合研究所 人間情報研究部門 デジタルヒューマン研究グループ



コミュニケーションロボット「Sota」



ともにつくる サイセンタン!
(人間情報研究部門
デジタルヒューマン研究グループ)

▶ 特別イベント「世界のはじまりをさぐる」

宇宙航空研究開発機構、国立天文台、国立極地研究所と連携し、生命、太陽系・地球、宇宙のはじまりを探索するための研究について、一見関係がない研究同士のつながりや、複数の研究機関の協力により進められる研究を紹介しました。

■ 先端の科学技術に関する調査

新規展示や館内外のイベントなどを企画・開発、実施するにあたり、国内外の先端科学技術の動向を把握するために、181名の研究者・技術者らへ調査やインタビューなどを行いました。

■ 学会などでの発表

▶ 日本地球惑星科学連合2015年大会

セッション：Future Earth-持続可能な地球へ向けた統合的研究

タイトル：市民のための地球システムリテラシー

日時：2015年5月25日(月) 場所：幕張メッセ 参加者：40人

▶ Learning From Disabilities(Academic Lectures)

タイトル：Development and Demonstration of New Media and Communication Techniques for the Disabled

日時：2015年7月25日(土) 場所：University of California, Los Angeles 参加者：20人

▶ 日本理科教育学会 第65回全国大会

タイトル：科学館の展示から未来を考える高校生向けワークシートの開発、「ギモン」からはじまる科学探究プログラム、地球システムを総合的に捉える映像教材の活用

日時：2015年8月1日(土) 場所：京都教育大学 参加者：55人

▶ 科学技術社会論学会 第14回年次研究大会・総会

タイトル：「市民対話は参加者にどのような変化をもたらしたのか～World Wide Viewsのアンケート分析より」、「世界市民会議World Wide Views日本大会における市民の「声」－気候変動という課題を自分の文脈で語る－」、「World Wide Views2015の実践と今後の発展の方向性について」

日時：2015年11月21日(土)、22日(日)

場所：東北大学川内南キャンパス 参加者：50人

(敬称略)

3. つながりをつくる メディアとのつながり

企画展やイベント、未来館のさまざまな活動のほか、先端科学技術のトピックなどについて情報発信するとともに、メディアとのタイアップを通じ新しい利用層への発信も行っています。

■メディア対応

新規常設展示や企画展、ノーベル賞受賞関連のイベント、外部メディアとのタイアップイベントなどの活動について、多くのメディアで取り上げられました。

- ▶メディア対応件数：12,616件
- ▶広告費換算：7,877,403,677円

■外部メディアとの連携

タイアップイベントや執筆、監修などにより、媒体でのイベント告知、集客だけではなく科学情報の発信、未来館の認知度向上につなげました。

- ▶日本賞50周年記念イベント「U18 ぼくらの未来」
10月17日(土)に、NHKとのタイアップで「U18 ぼくらの未来」を開催し、番組化およびコミュニケーションロビーでのパブリックビューイングイベントを実施しました。
- ▶サイエンス・スタジアム 2015
昨年に引き続きNHKとのタイアップイベント「サイエンス・スタジアム 2015」を12月5日(土)、6日(日)に開催し、番組の公開収録（NHK総合テレビ「あなたのやさしさを2015」、Eテレ「サイエンスZERO」、「すイエんサー」、BSプレミアム「コズミックフロンツスペシャル」）、科学コミュニケーターの番組出演などを行いました。
- ▶執筆、監修
「Newton」、「THE PAGE」などへの寄稿や書籍の科学監修を行いました。



日本賞50周年記念イベント
「U18 ぼくらの未来」

3. つながりをつくる 産業界とのつながり

パートナーシップ制度の活用、企画展への協賛・協力のほか、民間企業などと積極的に連携しながら、科学技術と社会とのコミュニケーションの活性化に向けた活動を行っています。

(企画展示の協賛などについては、「1. 科学を伝える 企画展示」をご参照ください。)

参考: <http://www.miraikan.jst.go.jp/aboutus/approach/partner.html>

■ 株式会社リコーとの協働活動

オフィシャルパートナー(ゴールド協賛企業)である株式会社リコーが海老名駅西口地区に開設した「RICOH Future House」内で開催されている小中学生向け実験教室 コサイエラボに協力しています。未来館初のサテライト活動「Miraikan Labサテライト」として、実験教室のプログラム開発・提供、及び講師へのレクチャーを行っています。



気象コース「きみだけの温度計をつくろう～温度と重さの関係～」

▶ Miraikan Labサテライト

気象コース(単発プログラム)

開 講: 2015年9月22日(火)

ロボット工学コース(単発プログラム)

開 講: 2016年1月23日(土)

■ 「未来館フォーサイト2015」「未来館フォーラム2015」の開催

未来館と関わりの深い企業・団体を招き、未来館の活動報告およびネットワーク構築の場として、基調講演や交流会などを実施しました。

▶ 未来館フォーラム2015

開催日: 2015年7月14日(火)

参加者: 173人

▶ 未来館フォーサイト2015

開催日: 2015年11月13日(金)

参加者: 86人

アドバイザー: 梅澤高明(A.T.カーニー 日本法人会長)

ディレクター: 江渡浩一郎(産業技術総合研究所 知能システム研究部門 主任研究員)



電動車イス「WHILL Model A」

■ その他の企業との協働活動

ワークショップや体験イベントなど、多様な活動を行いました。(一部抜粋)

- ・株式会社NTTドコモ、WHILL株式会社:
電動車イス「WHILL Model A」の試験的貸出を電動車イスのシェアリング事業に関する一般利用者検証の機会として実施(2015年6月8日(月)～2015年7月5日(日))
- ・ヴイストン株式会社、株式会社NTTデータ、日本電信電話株式会社:
コミュニケーションロボット技術の実証実験としてコミュニケーションロボット「Sota(ソータ)」を展示(2015年8月1日(土)～8月31日(月))
- ・ブルームバーグ(Bloomberg L.P.): イベント「Picture Happiness on Earth」を実施
- ・グーグル株式会社: 「Google Field Trip Days」、「Google Science Jam 2015」を実施
- ・Apple: iBook版 Geo-Scope データ制作 等



サマーワークショップ
「Picture Happiness on Earth」



Google Science Jam 2015



Google Field Trip Days

(敬称略)

3. つながりをつくる 国内外からのゲスト

科学技術基本計画などの国の施策をどのように実現できるか、また蓄積した情報をどのように国の施策に反映できるか、立法府・行政府等との関係を構築しながら、日々の業務を通して検討・活動しています。2015年度は、主に次のような方々が来館されました。（一部抜粋）

▶ 国内（計19件 一部抜粋）

- ・ 藤井基之 文部科学省 副大臣 [2015年4月2日(木)]
- ・ 安倍晋三 内閣総理大臣 [2015年8月26日(水)]
- ・ 赤崎勇 名古屋大学 特別教授・名誉教授 [2015年9月15日(火)]
- ・ 市原健一 つくば市 市長 [2015年12月24日(木)]



安倍晋三 内閣総理大臣

▶ 海外（計96件 一部抜粋）

- ・ 尚勇 中国科学技術協会 筆頭書記 [2015年4月13日(月)]
- ・ イオニアス・カスリーディス キプロス共和国 外務大臣 [2015年7月8日(水)]
- ・ シリル・ラマポーザ 南アフリカ共和国 副大統領 [2015年8月24日(月)]
- ・ マニュエル・ヴァルス フランス共和国 首相 [2015年10月5日(月)]
- ・ マルコス・フェルミン・ロドリゲス・コスタ閣下 キューバ共和国 大使 [2015年10月19日(月)]
- ・ ダニエル・マディンバ・カンロジ コンゴ民主共和国 研究科学技術大臣 [2015年11月18日(水)]
- ・ マルコム・ターンブル オーストラリア連邦 第29代首相 [2015年12月18日(金)]
- ・ マフムード・アッバース パレスチナ自治政府大統領兼パレスチナ解放機構(PLO)執行委員会議長 [2016年2月16日(火)]
- ・ カール16世グスタフ スウェーデン国王 [2016年2月18日(木)]



赤崎勇
名古屋大学 特別教授・名誉教授



マニュエル・ヴァルス
フランス共和国 首相



マルコム・ターンブル
オーストラリア連邦 第29代首相



マフムード・アッバース
パレスチナ自治政府大統領 兼
パレスチナ解放機構(PLO)
執行委員会議長



カール16世 グスタフ
スウェーデン国王

（敬称略）